

山田かまち一世の芸術家



生命力あふれる作品群

「アルタミラの壁画」

かまちは1960年、高崎市出身、1歳半のころから絵を描くことに熱中した。倉賀野小3年の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

山田かまち。高崎に通っていた男子生は1977年に行き渡り、急遽するまでに、数日に及ぶ絵画や詩の作品を制作して、躍動感あふれる動物の姿や精緻なデッサン、内面を表現したような色彩豊かな抽象画のほか、興味深い筆まっすぐな線画、作品や連作は現在、高崎市山田かまち美術館(同市片岡町)で展示され、死後40年以上経った今でも多くの人々を魅了している。

「アルタミラの壁画」は倉賀野小3年の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「3歳を描いた」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん



かまちの代表的な作品の一つ「フリーズ・ミスター・ポストマン」。手紙を待つ幸福感や郵便配達への感謝の気持ちを感じられる



かまちが小学3年の冬休みに描いた52枚の動物画のうち一枚「虎」に力強へ今にも動きたしそうな迫力がある

美術館情報

高崎市山田かまち美術館
【所在地】高崎市片岡町3-23-5
【開館時間】午前10時～午後6時(入館は閉館30分前まで)
【休館日】月曜(祝日の場合は翌日)、

祝日の翌日、年末年始。展示切り替え期間。
【観覧料】一般200円。大学生・高校生150円。20人以上の団体の場合は割引。中学生以下の子ども、65歳以上の高齢者は無料。障害者手帳の交付を受けた人と付き添い1人も無料。



かまちについて解説した山田かまち美術館館長の塚越さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん

「鳥をモチーフにした」は、1960年、高崎市の倉賀野小3年生の時、東京芸術大専の美術教師だった内藤健二が担任になった。竹内さん